

以下のレポートは、本年2023年10月、弊社が取り扱いを致しております7つのファンドにつき、ファンドごとに作成を致しました、各ファンドの「2023年9月月次報告書」の前半部分です。

各々のレポートの後半部分に於きましては、各ファンドごとの分析・評価を致し内容・結果をまとめましたが、今回こちらではご案内出来ません。なぜならば、弊社取り扱いの各ファンドは全て、日本の金融庁に届け出を行っております「私募ファンド」という扱いの金融商品なのですが、この「私募ファンド」は、金融庁のルールで、一般に広告宣伝が行えないからです。上記の各ファンドの2023年9月月次報告書は、各ファンドの株式をお持ちのお客様にお届けをさせて頂いております。つまりホームページから広くアクセスできる、このニュースレターのこちらの紙面ではご案内をすることが残念ながら出来ません。こちらでは、各ファンドの報告書に共通の前半部分である、「市場についての総論」だけを掲載させて頂きました。

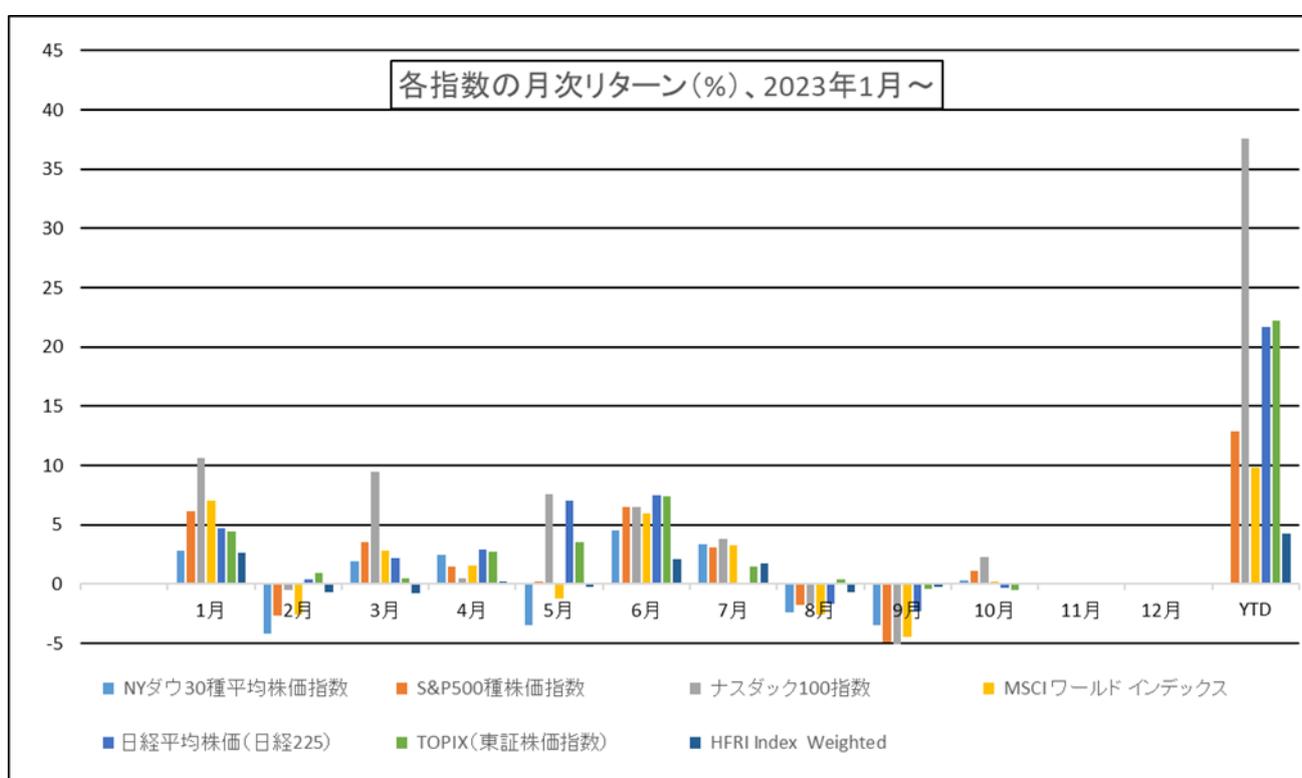
もし、後半部分のファンド別の報告書をご覧になりたいお客様は、どうぞ弊社・営業部までご連絡ください。お手続きの上、個別に対応をさせて頂きます。

連絡先は、TEL：03-6225-2745（営業部）、メールアドレス：info@airssea.co.jp でございます。

どうぞよろしくお願い致します。

この月報は2023年9月のものなのですが、以下の表とグラフ、及び総論は、この原稿執筆時の2023年10月16日時点でのものになります。

2023年(%)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	YTD
NYダウ30種平均株価指数	2.8	-4.2	1.9	2.5	-3.5	4.5	3.4	-2.4	-3.5	0.3			0.1
S&P500種株価指数	6.2	-2.6	3.5	1.5	0.2	6.5	3.1	-1.8	-4.9	1.1			12.9
ナスダック100指数	10.6	-0.5	9.5	0.5	7.6	6.5	3.8	-1.6	-5.1	2.3			37.5
MSCI ワールド インデックス	7.0	-2.5	2.8	1.6	-1.2	5.9	3.3	-2.6	-4.4	0.2			9.8
日経平均株価(日経225)	4.7	0.4	2.2	2.9	7.0	7.5	-0.1	-1.7	-2.3	-0.3			21.7
TOPIX(東証株価指数)	4.4	0.9	0.5	2.7	3.6	7.4	1.5	0.4	-0.4	-0.5			22.2
HFRI Index Fund of Funds	2.01	-0.55	-0.70	0.29	0.08	1.14	1.14	-0.16	-0.29				2.99
HFRI Index Weighted	2.66	-0.64	-0.80	0.24	-0.20	2.14	1.78	-0.72	-0.20				4.27



注：上記表とグラフは、公表されている資料から、エアーズシー証券が作成したものです。2023年9月の数字は、2023年9月5日までのもの、もしくは速報値になります。また、以下のコメントは、運用会社アンタークティカ社より共有されたレポートを基に、エアーズシー証券が作成したものです。信頼できる情報に基づき作成をしておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保証するものではありませんし、将来の実績を保証または示唆するものでもありません。エアーズシー証券は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じた如何なる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

2023年9月月報の総論として、2023年9月の市場をまとめました。

9月を通じて市場は緊張感に包まれていました。以下の3点がその要因であったと思われます。

1. 債券利回りの上昇とカーブの急勾配化
2. エネルギー価格の急上昇
3. 循環的な景気減速への懸念の増加

長期債の利回りが劇的な動きをし、米国30年債利回りは+49 ベーシスポイント、ドイツ30年債は+44 ベーシスポイント上昇しました。これは、FRB（米連邦準備制度理事会）がタカ派の発言を行ったことによるもので、市場参加者は「長期にわたり高水準」の見通しを強く持つようになりました。結果として、利回り曲線の急勾配化の動きが急で、米国の2年債と10年債の金利差が四半期を通じて+58 ベーシスポイント上昇し、さらに9月に+28 ベーシスポイント上昇しました。一方で、ドルは強化傾向にあり、7月中旬以降、DXY注は比較的一貫した方法で100から106まで上昇しました。

注：“DXY”は、米国の為替市場における米ドルの指標を示す通貨記号で、実際には米国の主要な外国為替市場での米ドルの相対的な価値を示す指数を指します。この指数は主に他の主要通貨（ユーロ、日本円、英ポンド、カナダドル、スウェーデンクローナ、スイスフラン）に対する米ドルの価値を示します。DXYは、米ドルが相対的に強いのか弱いのかを追跡するための一般的な尺度として使用されます。DXYの値が上昇すると、米ドルが他の通貨に対して強化していることを示し、値が下がると米ドルが相対的に弱まっていることを示します。この指数は外国為替市場の参加者や経済アナリストにとって、米ドルの相対的な価値を迅速に把握するための便益的なツールです。

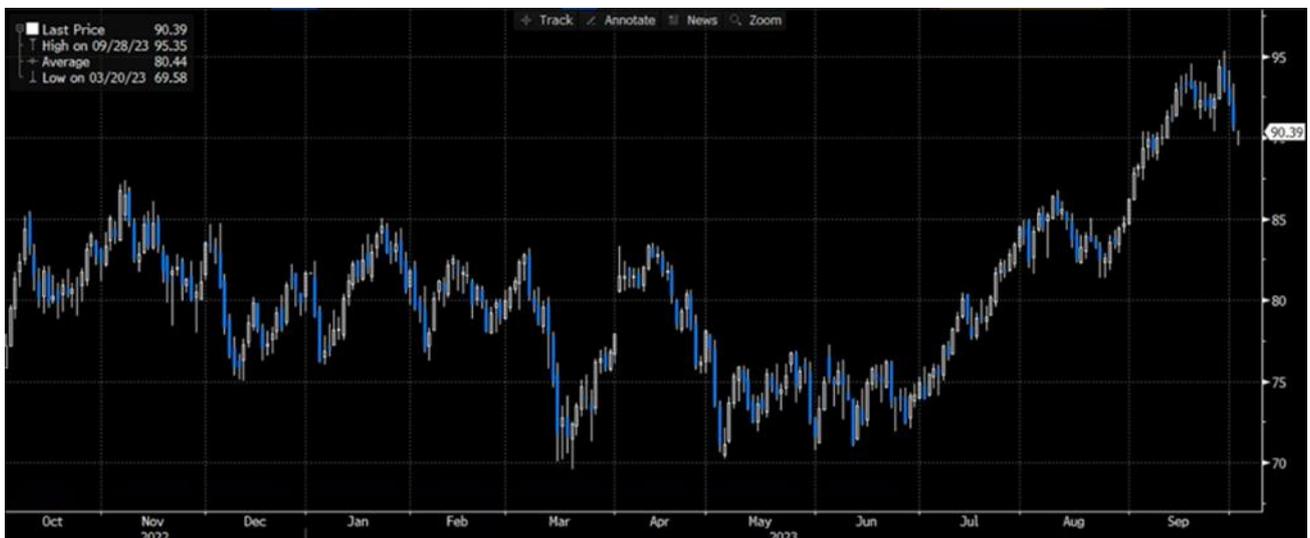
図1: 米国30年債利回り（10月7日から10月23日まで）



出典: 2023 年 10 月 3 日現在、運用会社アンタークティカ 提供

2023 年 6 月末以来、サウジアラビアの生産削減とロシアの輸出制限計画によって、Brent 原油価格は約 20 ドル上昇し、現在は 90 ドル以上に達し、1 か月間で 100 ドルに迫る状態にありました。供給による価格上昇は、ヘッドラインインフレーションの下降傾向を抑制する可能性があります。(言い換えると、原油価格などの商品の価格が供給の変化によって上昇する場合、これは一般のインフレ率(ヘッドラインインフレーション)の低下を妨げることがあります、という意味です。)特に、9 月にユーロ圏のインフレーションは前年同月比 4.3%に低下し、非エネルギー産業財やサービスも大幅に減少しました。高い原油価格とストライキが組み合わさり、特に UAW(全米自動車労働組合)に焦点を当てている状況で、再び 1970 年代のような時代に戻ったような感じがしており、構造的インフレーションの(潜在的な)第 2 波が最も恐れられています。

図 2: ブレント原油 (2023 年 10 月 22 日から 2023 年 10 月 23 日まで)



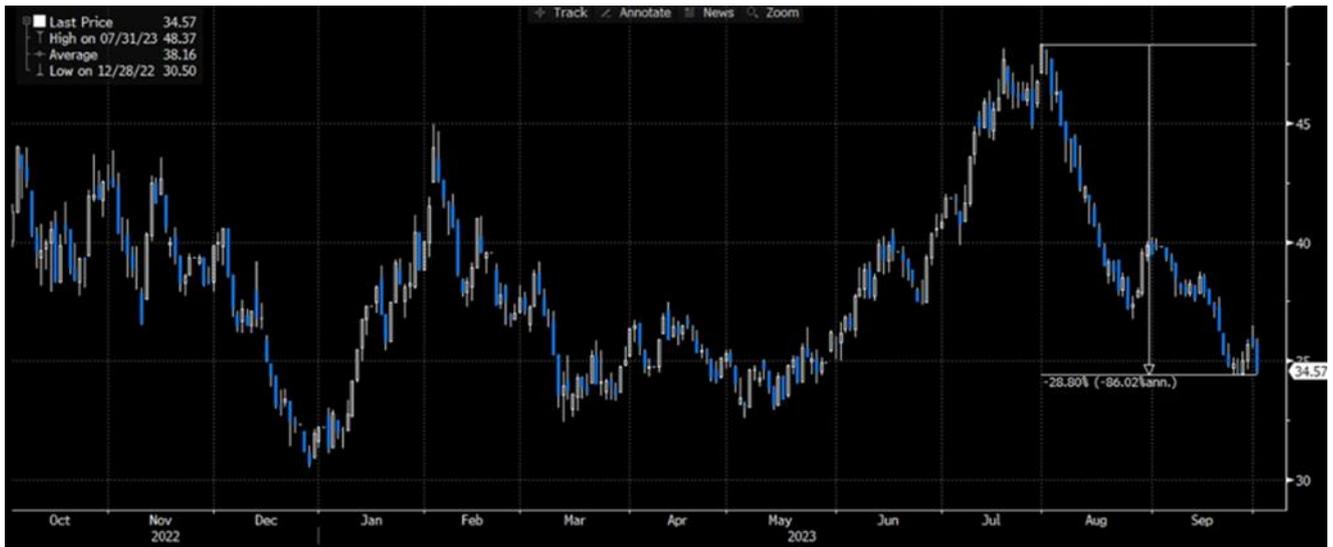
出典: 2023 年 10 月 3 日現在、運用会社アンタークティカ 提供

最終的に、景気の減速に対する懸念は、連続的なマクロ経済データの悪化として現れました。具体的には、サービス業の PMI の不調、ドイツの産業生産の不調、ユーロ圏の PMI が下方修正されたこと、ドイツの IFO 指数が 5 か月連続で低下したことなどがあります。最終的には、これらの悪化した経済状況に金融状況の引き締めが結びつき、株式市場を下落させました。9 月 NASDAQ は-5.07%、S&P 500 は-4.87%の下落となり、エネルギーおよびディフェンシブ分野と他の市場の間には二分化が起きました。中国は引き続き景気が悪化し、日本も株式市場の持ち直しに続いて続落しました。株式市場でのショート売り(売りポジションを持つことで価格が下落することを期待する取引)が続いており、高いショートインタレスト(多くの投資家が同じ株式をショート売りしている状況)を持つ株式が売却されています。

特に、7 月末から 9 月までの間、特定の株式はその価格が 25%以上下落したとされており、この下落が

潜在的な「ショートスクイズ」に関連していることが示唆されています。ショートスクイズは、ショートセラー（売り手）が大きな損失を被る可能性が高く、そのために売りポジションをカバーしようとする他の投資家によって株価が急上昇する現象です。ヘッジファンドは、このような状況を警戒し、ショートポジションをカバーする可能性に備えているとされています。

図 3: GS リキッド・モスト・ショーテッド・インデックス (2023 年 10 月 22 日から 2023 年 10 月 23 日まで)



出典: 2023 年 10 月 3 日現在、運用会社アンタークティカ提供

情報ソース、及び注意事項：

アンタークティカ社、HFR ホームページ、ブルームバーグ、日経新聞、トムソン・ロイター、ウォール・ストリート・ジャーナル、リフィニティブ、QUICK などのソーシャルメディア、ウェブサイトの信頼できる情報に基づき、本資料を作成しておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保障するものではありません。また、本株式の過去の運用実績に関する分析の提供は、将来の運用成績を示し保障するものではありません。エアーズシー証券株式会社は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じたいかなる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券株式会社の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

情報ソース、及び注意事項：

- 本資料は、エアーズシー証券株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 本資料は、信頼できる情報に基づき作成しておりますが含まれる情報の正確性や完全性、また使用された情報源の正確性や信頼性を保証するものではありません。
- 本資料の内容は対談参加者の意見などを反映したものであり、内容の一部はエアーズシー証券の見解を示すものではありません。
- エアーズシー証券株式会社は当資料の内容又はこれに関連した分析の使用により生じた如何なる損失にも責任を負いません。
- エアーズシー証券株式会社の許諾無しに当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

エアーズシー証券株式会社

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号 鉄鋼会館1階

TEL: 03-6225-2747 FAX: 03-6225-2748

第一種金融商品取引業・第二種金融商品取引業 関東財務局長(金商)第33号

加入協会: 日本証券業協会、特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター



エアーズシー証券株式会社
AIR'S SEA SECURITIES CO., LTD